

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡-太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木 1734
☎090・
3421・3046

一口メモ

▼適度に
一月後半から東北、北信越地方の日本海側は、記録的な豪雪に見舞われている。気圧配

置が昭和三十八年(一九六三年)一月の三八豪雪と共通点が見られると言う。このとき県北部では積雪四尺を超え、中山間地域の過疎化が進むきっかけになった。幸い今年には県西部の積雪は少ない。が、春以降の水不足が心配される。人の暮らしは大自然の掌の中にある。

四人が豊かさ再認識 短距離のツアーを企画

参加したのは加計の歴史や地域情報に詳しい大倉啓司さん、太田川沿いを何度も歩いている広島市在住の蒲池清土さん、植物に詳しい広大本宮さん、植物に詳しい部長と本宮宏美事務局長。午前九時、加計のかけはしを出発、主に交通量の少ない右岸道路を通り、十五分先の第一ゴール安野を指した。途中、道沿いで植物の説明を聞き、カワアイの駅・安野の地名である「船場」の由来になった太田川の船着き場の跡では、蒲池さんが今に残る石組みを解説した。ゴールの飯室には午後五時に到着した。



参加記念の船着き場の跡では、蒲池さんが今に残る石組みを解説した。ゴールの飯室には午後五時に到着した。

テストイベント「太田川沿いを歩く会」 風景や自然、歴史を訪ね25キロ

太田川沿いの自然や風景、暮らし、歴史を訪ねる「太田川沿いを歩く会」が1月17日、4人が参加して加計-広島市安佐北区飯室間の25キロで開かれた。さんけんが実施したテストイベントで今後、5キロ程度の小刻みなツアーを企画し、太田川の魅力を広めていく。

トチ餅上々 ペットンコ



トチの実のあく抜きや皮むきなど、昨年からトチ餅づくりの前作業を体験、記録している広太さんけん部員と地元住民ら十三人が一月十八日、安芸太田町上殿コミュニティセンターで新年餅つき会を開き、杵で二臼を搗きあげたII写真。初体験の部員もいて、笑い声や掛け声が飛んだ。実の状態がよく「何を付けなくてもおいしい」と満足そうだった。同部は今秋、技術の伝承結果を発表する予定。

自伐型林業フォーラム盛況 本宮理事長 溪畔林再生事業を発表

NPO法人自伐型林業推進協会(東京)主催の「林業フォーラム」が流域から考える安芸太田町の森2026(一)が一月十七日、安芸太田町役場で開かれ、本宮炎理事長が三段峡の環境とさんけんの溪畔林再生事業について発表した。用意した五

十席が足りなくなるほどの参加者があり、予想外の盛況だった。フォーラムでは自伐型林業のメリットや環境に対する貢献、町内での取り組みについて情報提供があった。同協会が環境をテーマに開催したのは初めて。

知床冬季ツアー研修に参加

井上嵩裕隊員 世界自然遺産の施設視察

世界自然遺産である北海道・知床を一月二十六日と二十七日の両日、井上嵩裕隊員が二施設を視察し、冬のツアー研修を受けた。知床自然センターと知床世界遺産センターでは、来訪者がフィールドに入る前に、自然環境や安全、保全の考え方が分かる工夫が随所に見られた。知床ネイチャーオフィスのスノーシューツアー研修では、野生動物の足跡や行動痕を手掛かりに、冬の自然への理解が深まる体験が組まれていて、示唆に富むものだった。面会した同オフィスの松田光輝代表は安芸太田町の

ドコモ社との事業 来年度は広島開催

NTTドコモ中国支社とドコモCS中国、さんけんが一月十六日、来年度実施する協業事業を検討する会議をドコモ広島大手町ビルで開き、社員を対象にした生物多様性研修の企画運営、巣箱づくりと生物多様性講座の二本が決まった。昨年は三段峡での川遊び体験だったが、参加しやすくなるため会場を広島市内の同社ビルにした。

セピア写真帖

(39)



現在に残る広島市中区舟入の料亭・羽田別荘は戦前、一大レジャー企業であった。最盛期には一万三千平方メートルの敷地を有し、動物園にはヒョウやラクダ、歌劇団には踊り子が五十人在籍し、各地で公演もして

ホテル開業 脚光集める三段峡象徴

いたと言う。そんな羽田別荘が目をつけたのが新観光地として急浮上した三段峡だった。峡中の葎ヶ原で開業した羽田山荘に続き翌年の一九三三年、正面口で羽田ホテルを開業した。写真は戸河内町史に掲載された雪景色外部がガラス張りだが、部屋は畳敷きの純和風だった。なぜ「ホテル」なのか。本家が羽田「別荘」であり、言わば支店を「旅館」にはできないのと、当時は宮島ホテルや松島パークホテルなど、観光地にシンボリックな外国人向けホテルが出来ていた影響だと推察する。今秋、三代目のホテルが開業する。三段峡が時を超えてもてなす。(松尾俊孝)

自然塾の活動で成長

この人



石田悠侑さん「ゆうう」と読む。小学生のとき、家族と参加した深入山での希少チョウ類の調査がきっかけで三段峡とつながり、本宮芳太郎君とともにさんけん自然塾を立ち上げた。

人前で話すのが苦手な人見知りだったが、自分の知識や喋りに自信がつき、企画・運営面での学びが多かったと言う。自然塾のリーダー的存在で東広島市から駆け付けて活動した。野鳥に詳しく、白衣の自称「ドクター・カワセミ」が人気を集めた。今春、県外へ進学する。塾が次の世代へ引き継がれるのが嬉しいと話し、さんけんへ「これからも自然が好きな子供達の活動拠点として発展してほしい」とエールを送る。(炎)